

PHAYAOLレポート 2008-10 (モン「Hmong」のお正月)

もうすぐ **2009 新年** がやってきます。

モンの人々は、タイで一般的な仏暦とも西暦とも違う独自の太陰暦を、持っています。西暦に合わせると毎年日にちが違うことになっていきますが今年は、12月27日が元旦に当たります。(収穫が終わった新月の説もあります。) モンの正月行事は、日本との類似点がいくつもあり餅つき、独楽回し、たこ揚げ、竹馬等見ていると日本の田舎にいるようです。豊作を占ったり精霊に祈願するなど日本に似た神事もあります。

大晦日には大掃除をし、各家にある祭壇に祈りを捧げて祖先の霊を呼び。元旦の朝は村の広場で、お年寄り達にご馳走を振る舞った後、近隣の村から集まった村人達が新年の挨拶や、交流会、鮮やかな刺繍がきれいなモンの伝統衣装で踊りモン式の弓矢競技、竹馬競争、ケーン(モンの笙)等あり、夕方からは舞踏会で夜遅くまで歌や踊りでお正月を祝います。以降1週間程度が松の内、村は正月気分が華やぎます。

新年の代表的な行事は未婚の男女が知り合うことを目的とした伝統的な遊戯があります。黒い布で作った毬を民族衣装の男女が投げ合いその間に語り合う。みんなの目撃している前ですることが条件となっているので広場では常に10数組ほどのカップルが、少しはにかみながら投げ合う微笑ましい光景が見られます。また、家では鶏や、豚などが食卓に上がり親戚や、近所で、互いに食事に招きあってお正月を過ごします。

こんな中でも、さらに貧困で、家族の誰一人伝統の民族衣装の晴れ着を着れない・おもちゃ満足に食べられない子ども達も10%程度います。平均的には、自立でき始めたようですが、貧困の中で取り残された人たちは益々格差が激しく、悲惨な状況です。(父・母子・障害者をもつ家庭・耕作土地のない家庭、国民権の無い人など) こんな人たちに思いをよせ、みんなで助け合って差別のない平和な社会が実現することを願っています。



シャンティ寮の子ども達は、「学校に通い、ご飯も3食を食べることができ毎日感謝しています。」自分が学校に行くことができるのは、家族の犠牲のもとにあることを知っているだけに、そのぶん、一生懸命勉強し将来は、まず、家族が満足に食べることができるよう、弟や妹たちにも、学校に行けるよう頑張りたいと思っています。夏休、中間休、お正月休の期間は、アルバイトに励みます、今年もお正月がやってきます。

お正月は、家族みんなで過ごします。お正月は、アルバイトで貯めたわずかなお金ですが、家族みんな
で分け合って「お餅」を食べます。お正月は、家族と一緒に過ごせる1年で一番幸せなひとときです。
お正月は、みんなに会って夢を語ります。 「日本の皆さん、私たちに勉強の機会をくれてありがとう。」

—シャンティ山口教育支援募金にご協力をお願いします。—

081205 saeki